

2025年度以降の「文学部一般選抜」における外国語選択科目の一部変更について

慶應義塾大学文学部は、これまでディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに定める教育理念と教育内容を念頭にアドミッション・ポリシーを定め、これを具体的に実現する形で入学試験を行ってきた。特に、「文（ことば）にかかわる広大な領域」（ディプロマ・ポリシー）を対象とする本学部では、「着実な言語運用能力」（カリキュラム・ポリシー）を培うべく、「諸文献を読み込み、理解するための基礎となる語学力」（アドミッション・ポリシー）が求められる。したがって、一般選抜の外国語（英語）の場合、読む、書く、聴く、話すといった英語の基本的な技能の到達度はもとより、学習指導要領に基づく高等学校での学習内容、そして本学部が定める上記のポリシーにおいて特に強調されている、さまざまな学問分野に通底するアカデミックな外国語情報処理能力の適性を判断するものとして、一般選抜の試験では、いわゆる超長文を素材とする英語の各種技能に関する出題を行ってきた。このことの成果については、学内でのさまざまな検証はもとより、こうした入学試験を経て入学した学生が、本学部の英語教育を受け、さまざまな学問的修練を経て国内外の有為な人物として社会に巣立っている現況によって十分に証明されるであろう。それゆえ、従来のこうした超長文を素材として英語の各技能に関する出題を行う入学試験の形式は今後も維持するものとする。ただ、入学定員800名のうち580名を募集人員（2023年度入試の場合）とする一般選抜の試験形態が単一の形式であるということについては、受験生の多様性や高等学校教育におけるさまざまな教育的努力を勘案し、それらに柔軟に対応することの必要から一定の変更による改善が求められよう。本学部では、既に自主応募制推薦入試における外国語の出題などにも工夫を重ねてきたが、今般、高等学校における学習指導要領の改訂や他大学の入学試験における英語民間試験利用の状況を考量し、本学部が求める学生像にふさわしい学生を選抜するのに適切な形での新たな試験形式、つまり外国語の選択科目へ「英語（外部試験利用）」を新設すること（2022年10月31日付『2025年度以降の慶應義塾大学「一般選抜」の変更点について』において公表済み）を予定するに至った。出願条件として記された実用英語技能検定（英検）のスコアなどは、いずれも本学部が求める学生像にふさわしい基準として本学部において検討された結果を受けたものである。受験生の多様な学力を適切に評価すべく、本学部は引き続き努力を重ねていく所存である。

受験生のみなさんへ

本学部での十分な検討を経て一般選抜に導入する外国語の新たな選択科目「英語（外部試験利用）」は、難易度において従来型の出題形式をとる「英語（独自試験）」との差異はありません。受験生のみなさんには、英語学習における自らの適性をよく見極めたうえで、適切な方式を選んで受験していただければよいと考えます。

以上